
▼レセプション Reception の定義に関して

古来のレセプションの厳密な定義は、9世紀のSahl (Zahel)によると「自分のディグニティにある天体からのアプリケーション（接近のアスペクト）」となる。（→國分秀星さんのHP内の記事より）

「自分のディグニティにある天体」とは、「エッセンシャル・ディグニティのテーブル」において、特定の注目天体（太陽、月、水星、金星、火星、木星、土星の7つのみ。例題の場合なら、牡牛の金星と魚の月）がそれぞれ位置するサインの度数に配列された各種の品位のルーラーのことを指す。→例：牡牛木星の場合なら、ドミサイル・ルーラーは金星、エグザルテーション・ルーラーは月、デトリメント・ルーラーは火星。

この「エッセンシャル・ディグニティ・テーブル」の各ルーラーの配列を元に、それぞれの品位のルーラーのレセプションの有る無しを見ていく。通常は「ドミサイル、エグザルテーション、デトリメント、フォール」の4つの品位のルーラーを主に使用する。事例によっては「トリプリシティ、ターム、フェイス」の品位のルーラーも参照する。

レセプションに使用されるのは「60度、90度、120度、180度」のサイン間によるアスペクトのみ。「30度、150度」は除外する。→☆疑問☆：「0度」（同じサイン内）ではレセプションは適用不可なのか？

広義の意味では「接近のアスペクト&天体の速度」を適用せず、2天体にサイン間によるアスペクトが生じていれば「レセプションが成立している」と見る。→☆疑問☆：広義と狭義のどちらがより有効か？

「ドミサイル」「エグザルテーション」のルーラーによるレセプションは、2天体間の関係においてポジティブな意味が強まり、「デトリメント」「フォール」のルーラーによるレセプションでは、ネガティブな意味が強まる。

<厳密な定義の例>

★牡牛20度に順行中の木星が位置し、蠍18度に順行中の金星が位置する場合。

牡牛のドミサイル・ルーラーである金星が木星にアプライ（接近）して正確な180度のアスペクトをこれから完成しようとしている。厳密には、この場合を「2つの天体がレセプションの関係にある」とみる。

レセプトする方の側の天体：蠍金星（receiving planet／レセプター）

レセプトされる方の側の天体：牡牛土星（received planet）

<広義の場合の例>

★蠍25度に太陽が位置し、獅子18度に逆行中の土星が位置する場合。

蠍太陽は、土星が位置する獅子のドミサイル・ルーラーであり、獅子土星とはサイン間で90度のアスペクトにある。この場合を広義の意味でのレセプション関係とする。

レセプトする方の側の天体 : 蠍太陽 (receiving planet／レセプター)

レセプトされる方の側の天体 : 獅子土星 (received planet)

■注意事項

実際の事例でのレセプションの解釈では、レセプションに関わる天体はふたつだけとは限らない。同一チャート内で複数個、例えば3天体が同時にレセプションに関わる場合もあるので注意が必要。(例: トランスレーション・オブ・ライト、プロヒビションなど)

くりまる

2006年09月25日 01:33

▼ミューチュアル・レセプション Mutual Reception に関して

2つの天体がお互いの品位を交換し合っている状態を指す。例えば牡羊の金星と天秤の火星なら、お互いに「ドミサイルの品位」を交換し合っていることになる。

※ただし、あくまで「品位の交換」を意味するだけであり、お互いのサインやハウスの位置を置き換えて考えることはできない。

ミューチュアル・レセプションは、エッセンシャル・ディグニティすべての品位間で生じる。ただし一般的には「ドミサイル、エグザルテーション、フォール、デトリメント」の4種を主に使用。

また同じ品位同士だけでなく、他の品位をの間に生じる組み合わせ「ミックス」のMRを参照する場合もある。

ポジティブな意味が強まるのは、順に「1: ドミサイル同士」のMR、「2: エグザルテーション同士」のMR、「3: ドミサイルとエグザルト同士」のミックスのMRとなる。

ネガティブな意味が強まるのは、同じく「1: デトリメント同士」のMR、「2: フォール同士」のMR、「3: デトリメントとフォール同士」のミックスのMRとなる。

■レセプションの解釈の手順

★以下の3項目を検討して、総合的に判断をする。

1 ディグニティ : 個々の天体の品位を確認し、品位による天体の働きの強弱の度合いを見る

例題の場合なら、牡牛金星はドミサイルで品位が良い。魚月はペリグリンで品位が良くない。(魚のドミサイル・ルーラーである木星の状態を確認すること)

さらに、お互いがエグザルト・ルーラー同士であることが、お互いの品位を高め合う。ペリグリンながら魚月の品位もちよっと良くなる（一見さんだけど、気の良い客）牡牛金星の品位は、ドミサイルにその分が割増しされさらに良くなる。（行きつけの店の常連で顔が利き、魚月に尊敬されて一目おかれる）

2 レセプション：天体が位置するディグニティのルーラーを確認し、レセプションの有無を見る

牡牛金星のエグザルト・ルーラーは月、魚月のエグザルト・ルーラーは金星で、MRが成立。

例題では、牡牛月と魚月の間に、エグザルテーション同士のMRが有る。「相互理解」が生じ、お互いを尊重しつつ意気投合する。

3 アスペクト：天体のサイン間で生じているアスペクトを見る。

例題の牡牛金星と魚月は、60度のサイン間にある。レセプション成立。

お互い初対面なのに、初っ端から気心知れてる友人のように、楽しい時間を過ごすことができる。

■補足：

広義の意味では、レセプションはディスポジションと同義となるのだそうです。つまり、蟹金星は牡牛土星のレセプターであるというのと、ディスポジターであるというのは同じ意味で使われるのだとか。（→國分秀星さんのサイト内の記事、オリビア・パークレーの講演内容より）

余談ながら。正直このことは自分にとって驚きでした。ディスポジション Dispositionの単語の意味を調べたら、確かにジーニアス英和大辞典によれば以下の通りでした。

- 1：（行為、人との関係に現れる生来の）（～する、または～に陥りやすい）気質、性質、傾向（inclination）、習性、性分（to do）
- 2：（一時的な）（～したい）気持ち（to do）
- 3：（物、軍隊などの）配置、配列

ディスポジターとレセプションが同義というのも確かに納得でした。なぜなら解釈上においてレセプションは、関わり合う天体間の「傾向、～したい気持ち、意向、好み、性向、性癖」を表わすからです。

例えばジョン・フローリー氏の「The Real Astrology」や「The Real Astrology Applied」の著書を読むと、レセプションについて「Reception shows their inclination to act」と説明があります。

現代占星術では「ディスポジション」を「配列」と和訳していますので。英語に強い方にとっては当然のことかと思うのですが。英語が不得意だったわたくしですと、ディスポジ

ションには「配列」の意味しかないはずと思い込んでいました。

なので。こういったことがひとつわかるたびに目からウロコ状態になって。古典占星術がどんどん面白くなっていった次第です。

■追記：補足の補足

「厳密な定義」と「広義の定義」という表現は、自分なりのものでした。こういう表現が古典の用語にある訳ではありません。ご注意ください。

ちなみに、ホラリーで事象や人間関係の解釈をする際は、ここでいう「厳密な定義」と「広義の定義」のどちらも使い甲斐がありますよね。

では「厳密な定義」の使用方法は？というと、

イレクションで「会社設立」や「お店のオープン」「仕事の契約」という、何か大切なアクションを起こすべく時間を選定する時には、やはりズバツと。ぜひとも「厳密な定義」で、レセプションの有効活用を！です。(^^)

くりまる

2006年09月25日 01:52